

編集後記

Editorial Postscript

黍稷農季人

Kibikibi Nokijin

人類学者や歴史学者が前々から指摘してきたように、増加する人口を制御してきたのは不幸なことであるが、飢餓、戦争、病気があった。ここに書きたくはないが、記録として残しておかざるを得ないだろう。世界中でコロナウイルス (SARS-CoV-2) が流行して大騒ぎになっている。これは一本鎖 RNA ウイルスで哺乳類や鳥類に病気 (気道感染症) を引き起こすという (Wikipedia から引用)。こんな目にも見えないものが、人間の現実社会をひっくり返すような大混乱を引き起こしている。人間の移動も、物品の流通も滞り、ヨーロッパでさえ、まるで戦時の戒厳令下にあるようだ。近年、観光して見て回ったパリやベネチアの見知った名所に混雑はなく、ニュース映像では人っこの姿がない。

春眠覚めやらない布団の中で、臃げに考えが浮かんだ。今日の仮想社会においても、コンピューター・ウイルスがサイバー攻撃をしている。コンピューター・ゲームは戦闘場面が多い。すなわち、現実社会と同

じように仮想社会でも病気と戦争が主な制御要因になっている。それでは、仮想社会においても、飢餓は起こるのだろうか。何を飢餓というのだろうか、デジタル・ディバイド (情報格差) や仮想通貨のことなのだろうか。目覚めてからもまだ思いつかない。私は郵便か電子メールしか使わず、自分なりの基準で過剰な便利に抗い、自ら情報格差の壁を作っている。世間は老人の虚勢と勘ぐるだろうから、言わなくてもよいことをあえて言う。定年退職直前まで、生物科学機器から情報機器まで自ら使用してきたので、デジタル機器を使えないのではなく、過剰には使いたくない。

アナログが好きなのだ。畑も農業機械を使わず、自分の手で耕すことが楽しいのだ。現代文明が過剰に科学技術に依存することなく、ほどほどに留めて、次第に真の文明 (田中正造)、生きものの文明に移行するように努め、できることなら若者たちに未来社会への希望をつなぎたい。

民族植物学ノオト 第 13 号 (2020) ISSN 1880-3881

発行日: 2020 年 3 月 30 日

発行所: 特定非営利活動法人 自然文化誌研究会

発行責任者: 植物と人々の博物館 木俣美樹男

所在地: 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
自然文化誌研究会

Ethnobotanical Notes No. 13 (2020) ISSN 1880-3881

edited by Mikio Kimata (Plants and People Museum)

The Institute of Natural and Cultural History,

3337-2 Kosuge, Kitatsuru-gun, Yamanashi Prefecture, Japan 409-0211